

カラフル

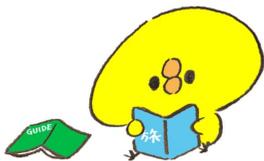
2021.06 No.03

新書を読もう月間が始まる

今月の読解カトレーニングの時間では『新書』に親しんでみませんか？

新書ってどんな本？

「本」には様々な大きさがあります。「新書」は、103mm × 182mmが一般的なサイズです。内容としては主に社会の関心事や教養、専門分野を解説した本になっています。代表的なものに岩波新書や新潮新書があります。



ひとつのテーマに対して様々な視点から考察した内容となっているので小論文や論文作成をするときのヒントになります。

「いつ」「どこで」読む本？

いつでも、どこでも読んでください。

寝る前に読むのも、電車の中で読むのもアリ！コンパクトで持ち運びしやすいサイズとなっています。片手でも読みやすい軽さなのもいいですね。



持ち歩けるサイズなので、隙間時間に読むことができます。いろいろなテーマの本があるから、気分でも選ぶこともできます。

約 103mm

約 182mm



進路別★読んでおきたい新書をPICK UP!



◇人文系・・・研究対象は文学、語学、文化、そして人間そのもの。



「空気」を読んでも従わない / 鴻上 尚史著 (岩波ジュニア新書)

どうしてこんなに人の頼みを断るのが苦しいのか。どうしてこんなに周りの目が気になるのか。どうしてこんなにラインやメールが気になるのか…。鴻上尚史が、「生き苦しさ」のヒミツと「生きやすく」なる方法を伝える。

◇法学系・・・法と政治の視点から現代社会の仕組みを探る。



多数決を疑う-社会的選択理論とは何か- / 坂井 豊貴著 (岩波新書)

選挙制度の欠陥と綻びが露呈する現在の日本。多数決は本当に国民の意思を反映しているのか？社会的選択理論の視点から、人びとの意思をよりよく集約できる選び方のルールをさぐる。

◇教育系・・・教育の本質や目的を学び、教員を養成する。



友だち幻想-人と人のくつなぎ>を考える- / 菅野 仁著 (ちくまプリマー新書)

身近な人たちとの親しいつながりが大事だと思っていて、そのことに神経がすり減るぐらい気を遣っている。なのにうまくいかないのはなぜか。さまざまなキーワードにしたがって問題を整理し、人と人のつながりについて考える。

◇経済系・・・経済の動きを分析し、現代社会に応用する。



人工知能と経済の未来-2030年雇用大崩壊- / 井上 智洋著 (文春新書)

あらゆる人々が遊んで暮らせるユートピアか？一部の人が豊かになるディストピアか？AIの発達でほとんどの人が仕事を失う近未来を、気鋭の経済学者が大胆に予測する。

◇**社会学系**・・・研究対象は、法律・政治・経済など社会生活に欠かせない全ての社会現象。



若者が無縁化する / 宮本 みち子著 (ちくま新書)

高校中退し、アルバイトにさえ就くことができない。家族と離れ、路頭に迷い、ホームレスになる。そんな若者の急増に対して、私たちはなにをなすべきか？ 若者の実態を明らかにし、彼らを孤立させない方法を提示する。

◇**国際系**・・・現実社会の動向を国際的な視野から捉える。



本物の英語力 / 鳥飼 玖美子著 (講談社現代新書)

発音はハチャメチャと完璧の間を狙う。語彙を増やすためには、たくさん読むこと。好きなこと、関心があることで英語を学ぶ…。英語学習の新たな視点を紹介する。日本人が「英語の壁」を乗り越えるための必読書。

◇**学際系**・・・社会学科全般にわたる幅広い分野が研究対象。



農山村は消滅しない / 小田切 徳美著 (岩波新書)

地方は消滅するのか？ 否。どこよりも早く過疎化、超高齢化と切実に向き合ってきた農山村は、この難問を突破しつつある。現場をとことん歩いて回る研究者が丁寧にその事例を報告、地方消滅論が意図した狙いを喝破する。

◇**福祉系**・・・社会系の学部。社会の構造や人間生活のあり方を追究する。



なぜ人と人は支え合うのか / 渡辺 一史著 (ちくま新書)

障害者について考えることは、健常者について考えることであり、自分自身について考えることでもある。2016年に相模原市で起きた障害者殺傷事件などを通して、人と社会、人と人のあり方を根底から見つめ直す。

◇**医療系**・・・チーム医療を支える医療専門職を育成する。



持続可能な医療-超高齢化時代の科学・公共性・死生観- / 広井 良典著 (ちくま新書)

高齢化の急速な進展の中で、日本の医療費はすでに年間四十数兆円を超え、さらに着実に増加している。「破綻」は回避できるのか？ 持続可能な医療そして社会を構想するための思想と道筋を、明快かつトータルに示す。

◇**理系**・・・さまざまな切り口から自然現象の真理を解剖する。



バッタを倒しにアフリカへ / 前野 ウルド 浩太郎著 (光文社新書)

人類を救うため、そして「バッタに食べられたい」という自身の夢を叶えるために-。昆虫学者である著者が、バッタ被害を食い止めるため単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴る。

今回、紹介したのは新書のほんの一部です。

自分の**進路**や**興味**のある分野で選んでもいいし、**タイトル**や**作者**で選んでもいい。

本を開いてみて「なんか違うな」と思ったら読む本を変えてもいいと思います。

みなさんが心に響く1冊と出会えることを応援しています。

借りる本に迷ったら、ぜひまほら館カウンターまで！

まほら館の今月のイベント

◇**錦江祭への参加**

図書部は映像部門と展示部門で参加予定。

今年度も「錦江湾高校推薦図書2021」ということで、先生方が「高校生のみなさんに読んで欲しい本」を選んでくださっています。本と一緒に先生方の紹介カードを展示します。貸出もしているので、ぜひ借りて読んでみましょう。

◇7月の**七夕**に向けて短冊を用意しています。願い事は具体的に。